

2013年度 Seattle 派遣学生体験記

Seattle Yeah!

電気工学科2年 公門 亮太

僕はシアトルでの一週間のホームステイでもう二度と経験することが出来ないような貴重な体験をたくさんさせてもらいました。シアトルに旅立つ前は、自分の英語力がとても不安で食事も喉を通らないほどでした。実際にシアトルへ行っても最初は全く相手の言っていることが聞き取れず、YesとNoでしか受け答えすることが出来ませんでした。しかしホストファミリーがゆっくり聞きやすいように話してくれたこともあり、僕は英語でたくさんのコミュニケーションをとることが出来ました。

僕はその一週間でスターバックスの本社やボーイングの工場、サッカースタジアム、動物園、学校など、様々な場所を訪れました。僕がどこを訪れても良いと感じたのは、人と人とのコミュニケーションの多さです。明らかに初対面の人とのやり取りでさえ、まるで友人の様な振る舞いを見せていました。日本ではないことだと思います。僕はこのようにシアトルと神戸との細かい違いをたくさん肌で感じる事が出来ました。僕が生まれてきて、これほど自分に刺激を受けたのは初めてでした。

自分が住んでいる環境から一步外へ踏み出すことによって、また新しい日本の良さというものも見つけられたと思います。今回このシアトル派遣に参加出来たことは、必ず僕にとってとても大きな財産になると思います。世界に目を向けてみるということは本当に大切なのだと思いました。



「広さ」と「自由」

機械工学科1年 仲村 洋南

僕はシアトルで日本では経験できないさまざまな体験をすることができました。シアトルで経験したことは、アメリカは「広くて自由」ということです。

「広い」と最も感じたのは向こうの学校を訪れた時です。アメリカは日本と比べ土地をたくさん持っているので、二階、三階と階を重ねる必要がないため、教室のひとつひとつが独立して敷地の中に点在していたからです。

「自由」だと感じたのはシアトルシティーの街に行ったときに経験した二つの体験です。シアトルシティーで僕はスターバックスの方のお話をシアトルの高校生と一緒に聞くことになりました。その話の中で数学の問題が出されました。僕はわからなかったのですがシアトルの高校生が手を上げ、解答したのですが、間違えてしまい笑われている時にスターバックスの方が近づいてきて「間違いを恐れないことはとても立派だ。そんな君にはこれをあげよう。」と言って、ずっとiPadをその高校生にプレゼントしていました。

もうひとつはホームレスの方に「金をくれ」と言われた時です。

この二つの体験から、「自由」とは、自分が努力すればするほど評価され、怠れば怠けるほど落ちていくということではないのかと感じました。

このようなことは日本には、絶対に体験できないことなので「シアトルに行って本当に良かった」と、思いました。



Great Experience in Seattle

応用化学科1年 図子 満里奈

私はシアトルでホームステイをし、ホストファミリーと一緒に一週間を過ごしました。最初は緊張して、自分から話しかける事ができませんでしたが、ホストファミリーがとても優しくかったので、少しずつ自分から話しかける事ができるようになりました。

ホストファミリーの Mia は十七歳でしたが、車を運転できたので、色々な所に連れて行ってってくれたのですが、その中でも一番印象に残っているのは学校です。生徒一人ひとりが自分のパソコンを持っていて、ほとんどの授業でプロジェクターとパソコンが使われており、日本とは違う授業スタイルにビックリしました。学校ではたくさんの Mia の友達に会いました。みんなフレンドリーで、初対面の私にも声をかけてくれました。

家では、Mia の家族・友達と一緒に Mia の誕生パーティーをしました。みんなで Happy Birthday to You を歌って、ケーキを食べたり、写真を撮ったりしました。Mia がとても喜んでくれたので、私も嬉しかったです。

一週間実際に生活を体験してアメリカの文化を学び、たくさんの楽しい思い出ができました。この経験は私の視野を広げてくれたと思います。このプログラムに参加できて本当に良かったです。この経験を機に、英語をもっと勉強したいと思いました。また、この経験を活かして、英語だけでなくこれからの生活も頑張っていきたいです。

